



9月からの新プログラム

プラネタリウム

宇宙のトップスター

～太陽の100万倍明るい星～

夜空に輝く多くの星の正体は、実は太陽と同じものです。太陽の正体は熱く燃えさかるガスの塊で、その表面の温度は6000度もあります。しかしこの太陽自体も、宇宙ではありふれた星にすぎません。

夜空にはいろいろな明るさの星があります。星の明るさが違う原因として、第一に距離の違いがあげられます。遠くにある星ほど、暗く見えます。しかしながら、遠くにあっても明るく見える星もあります。つまり夜空には同じように見えても、強烈に輝く星が存在しているのです。例えば、はくちょう座のデネブは1等星と明るい星ですが、他の星に比べて遙かに遠くにあります。デネブはなんと太陽の6万倍もの明るさで輝いていて、星の中でも最大級に明るい星なのです。

しかし中にはもっととてつもなく明るく、太陽の100万個ぶんものエネルギーを放つ星があるのです。いったい、どこにそんな星はあるのでしょうか。これらの星の多くは、雲に隠されてみるのことができません。しかし見えなくても、確かに存在しているのです。そんな強烈に輝く星の謎を紹介します。

企画・制作：江越 航(科学館学芸員)



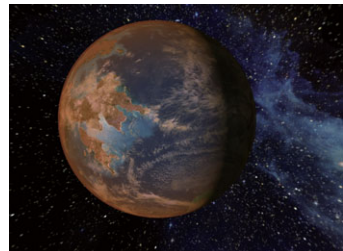
太陽の100万倍もの明るさで輝く星
Credit : ESO/L. Calçada

さがせ！第2の地球

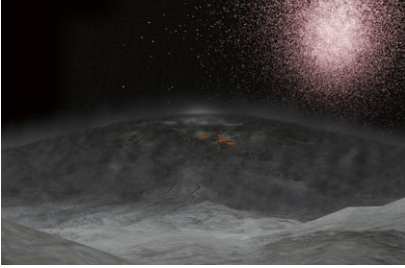
(ナレーション：桂しん吉)

9月3日(火)から、10月31日(木)まで、プラネタリウムで、「さがせ！第2の地球」を上映します。このプログラムは、2011年12月から2012年5月までも上映していたのですが、その時とはナレーションを変更して、新しいナレーションで上映いたします。

今回のナレーションは、桂しん吉さんをお願いいたしました。桂しん吉さんは、上方落語の桂



昼と夜が固定された惑星



地表が凍りついた惑星

米朝一門の落語家さんです。落語家さんによるナレーションといっても、落語風の口調ではありますが、落語ではなく、きちんと真面目な解説をしていただいております。

宇宙のどこかに、地球と同じように生命が住める惑星があるのだろうか？という疑問について、現在の観測で見つかっている太陽系外惑星の環境を推定し

たCG映像を見ながら、桂しん吉さんによる大阪弁での楽しい解説で、第2の地球を探す宇宙の旅をお楽しみください。

飯山 青海(科学館学芸員)

サイエンスショー

色のいろいろ

この「うちゅう」の11～13ページにも「光の三原色」と「色の三原色」について書いていますが、サイエンスショーでは、光や色の三原色だけでなく、色についていろいろな実験を行ないます。

空にかかる虹もきれいです。CDに光をあてると虹色に見えますね。うまく照明をあてると、こんな大きな虹をつくることができます。虹やCD、プリズムなどで虹色が見えるのは、白い光はこのよう

いろいろな色の光が混ざってできているからなのです。いろいろな物がいろいろな色に見えるのも、照明の光にいろいろな色の光が混ざっているからなのです。では、例えば左の絵を赤い照明や青い照明をあてて見てみると、いったいどのように見えるのでしょうか？



また、展示場4階では、企画展「色の彩えんす」も行なっていますので、サイエンスショーと合わせてご覧いただければと思います。

企画・制作：長谷川 能三(科学館学芸員)